平成２８年９月１２日

江差町議会議長　打越　東亜夫　様

総務産業常任委員会
委員長　　萩原　徹

江差町議会常任委員長印

委員会調査報告について

本委員会に付託事件の調査事件について、会議規則第７８条の規定により、下記のとおり報告します。

記

１．調査事件

平成２７年第３回定例会

発議第９号　新幹線を活用した産業振興に関する事務調査について

２．調査の経緯と結果

（１）　本委員会は、北海道新幹線の開業に伴い、開業に伴う効果が一過性ではなく、持続的に経済効果がもたらされなければならないものであることから、開業効果を産業振興に結び付けるための対策について調査することとし、平成２８年第１回定例会にて中間報告を行い、これまで調査を続けてきた。

（２）　北海道新幹線開業に向けた江差町の取り組みについて、担当課からのヒアリング、檜山振興局担当課及び木古内町を訪問し、広域連携をはじめとした各種施策の取り組み状況についての意見交換、また、新幹線開業を既に経験している自治体の先例を学ぶため、当町と立地条件が類似している青森県八戸市近隣の南部町、田子町へ視察を行い、調査を進め、さらに、函館バス㈱江差営業所、江差旅館組合、地元エージェント、開陽丸青少年センター、江差観光総合案内所、ぷらっと江差の各団体・事業所と意見交換を行い、最終報告に至った。

３．調査に対する意見

本委員会は、第一回定例会で中間報告後、引き続き開業後の効果を検証するため町内関係各団体と意見交換をおこなってきた。

人口減少・少子高齢化時代にあって、本町の活力と賑わいづくりのためには、人と物の交流拡大が重要であり、その中核を担う観光に大きな役割が期待されている。

このため、新幹線開業効果を最大限引き出す戦略的取り組みが求められており、次のとおり意見を付して報告する。

檜山郡江差町 受付 28. 9. 12 議会事務局

【意　　見】

１．二次交通対策について

開業効果を波及させるためには、新幹線駅からの二次交通の充実が欠かせないものであり、このため、中間報告では、国道２２７号線及び道道江差木古内線の道路改良の他、トイレ等のインフラ整備の充実について、述べたところである。

東北、首都圏から観光客を受け入れるためには、鉄路、道路、空路などハード面の整備の他、観光客の回遊性を促すための、案内情報、路線バス、新幹線、フェリーなどの乗り継ぎの利便性の向上が不可欠である。このため、交通事業者、観光事業者、行政等が連携して二次交通の充実に向けた取り組みが必要である。

２．魅力ある観光づくりについて

観光誘客のためには、本町の歴史や江差追分など伝統文化・芸能など既存の観光資源の活性化と、隠れた観光資源の発掘、創造に取り組む必要がある。

例えば、江差に数多くある民話・伝説・史話など、なかでも「開陽丸」「榎本武揚」「土方歳三」などにまつわる全国的にも著名な偉人伝説もある。民間のアイディアを取り入れながら新たな観光資源の掘り起こしをする必要がある。

交流人口増加のためには、地域の中にある資源・宝を磨きあげることで、地域の自信と誇りになり、ここを起点として作られる観光コンテンツは地域の魅力を高めることになる。江差には、自然、文化、伝統行事など磨けば光る素材がある。

体験型観光志向の高まりとともに、農・漁業や伝統文化など地域資源を活用した「ご当地体験」を商品開発する必要がある。

３．受け入れ態勢の整備

本町は、歴史的建造物や伝統芸能、鴎島など数多くの文化財・観光施設・自然景観を有しているが、交通アクセスや宿泊施設の問題もあり通過型観光になっている。観光客の入込客数は減少し続け、新幹線開業効果により本年は増加傾向にあるものの、地域経済への波及効果は限定的になっている。

このため、宿泊滞在型観光の受け入れ増強に向け、観光客の多様なニーズに対応した良質な宿泊施設の整備が必要である。

時間消費型観光コンテンツの充実も必要であり、「食」「体験」「ガイド」「おもてなし」などソフト面の整備も必要である。

また、既存宿泊施設の充実のため、宿泊施設誘客促進対策事業は旅館組合、商工会等の意見を踏まえ、制度内容の見直しを行う必要があるほか、宿泊施設の情報発信、宿泊予約対策としてインターネットが効果的であることから助成制度の検討も必要である。

開陽丸センターは、江差観光拠点としての整備が行われつつあるが、ぷらっと江差は管理棟を改修した施設のため、調理設備等の整備が不十分である。郷土料理等の提供が出来ないなど、施設使用に制約があること、特産品等の品揃えが少ないなど魅力に欠ける面がある。ぷらっと江差に対し、町としても商品開発・情報発信など、積極的にかかわる必要がある。